令和6年度　第2回菊池市公共交通会議　議事要旨

日時：令和6年11月13日（水）15:00～

場所：菊池中央公民館 中研修室

１．開会

２．会長挨拶

吉城会長：みなさん、こんにちは。お忙しい所、お集まりいただきありがとうございます。本年度の交通会議は、地域公共交通計画を作ることがミッション。前回は菊池市の現状について共有し、各事業者からも状況をお話いただいた。この状況を踏まえて調査を行い、今日は調査結果の報告と、結果を踏まえた計画の目標を議論することがメインとなる。これに関連する事務局の提案があるが、こういうことができるのではいか、など提案、意見して行ければと思っている。是非、活発な意見を賜りたい。

３．議題

（１）菊池市地域公共交通計画中間とりまとめ

吉城会長：前回欠席した方もいると思うので、事務局より前回の議事のご紹介をいただいた上で議題について説明いただきたい。

事務局　：前回の議事内容及び資料説明

吉城会長：内容が多いので整理する。ページで言えば1から6ページは課題について。ここは皆さんが住んでいる中で、この課題が抜けている、ずれている、という点から意見をいただきたい。
7ページ以降が方針について。課題を踏まえて、菊池市の未来の在り方の提案をしており、「公助と共助により持続的な移動環境をつくり、人と地域がうるおい・輝くまち、きくち」という基本的な方針を提案いただいている。菊池市の地域の未来について、こういうことが考えられる、ずれている、こういうことがいる、などの観点で意見をいただきたい。
最後のページは実施内容について。こういう内容に取り組んだ方がいい、こういうことができる、などの意見をいただけたらありがたい。

吉城会長：1点、質問する。4ページ左下の図にべんりカーの移動目的があるが、「その他」の内訳は何か。

事務局　：カラオケ、電鉄プラザ、自宅などである。

吉城会長：将来像について、隈府を中心に、心臓部として動いて元気になり、緑線や青線の軸を市内や他市に血液を送る血管としてしっかりつくっていくという方針の認識でよいか。

事務局　：そうである。

黒田委員：任意の場所で乗れない路線バス型であると、乗り場まで歩くことが難しく使えないという方の声を聴いている。

事務局　：これまで路線バスとコミュニティ交通は役割分担していた。地域でドライバーが移動を担うなど、地域によって対応は変わると思っている。

白石委員：地域全体を見渡して計画は策定いただきたい。べんりカーやあいのりタクシーが中心になるとはいえ、一般のバスやタクシー、福祉バスなどの地域の資源を把握して、その課題に対して施策を打つべきである。施策については良いが、現状の説明がべんりカーとあいのりタクシーしかない。地域の輸送資源について分析されているか。

事務局　：タクシーについてはヒアリングにより意見を伺っている。また、路線バスについては分析中である。

高松委員：9ページの集落内の移動はそれぞれの地域で行われているように見えるが、隈府などの拠点まではどう繋ぐのか。

事務局　：地域によってできるところとできないところがある。支えあいサービスができるところは、地域の商店などが集まるところまでのサービスを検討していく。より長距離のサービスは公助で考える。あいのりタクシーの形を変えたり、踏襲したりすることで、中距離を繋ぐことになるだろう。生活圏に応じたサービスになると良いと思う。

吉城会長：11ページの目標を達成するために実施する事業については事業者の方にも協力いただくところである。事業者から見ていただいた意見をいただきたい。

伊豆野委員：前提として、路線バス事業者は菊池市のみを運行しているわけではない。広域とのバランスを如何にとるか、という観点を持っていただき、話を進めていただきたい。

吉城会長：生活圏も市内に閉じているわけではない。周辺自治体の交通計画の整理はされているか。

事務局　：周辺自治体の計画は見ていないが、広域路線についての広域連携会議は開催されている。

宮尾委員：広域にバス路線は走っており、菊池市は3路線ある。大津から菊池を通って山鹿に行く路線や、菊池から山鹿に行く路線がある。路線には学校が点在しており、通学に利用されているので、そこを考えた路線網を考えていただきたい。学生には重要な足となっているので、疎かにならないようにしていただきたい。

吉城会長：通学利用について調査されているか。

事務局　：ICデータで分析したいと思っている。路線による特性を踏まえて幹線を考えていきたい。イメージの通りに路線を直ぐ変えることは難しいので、長期的な開発を踏まえて変えられるとことできないとこを検討する。分析して具体的施策に反映する。

最上委員：5年先の話も素晴らしいと思うが、現状は運転手不足であり、毎日乗務員がトイレに行く暇もないときがある。もう少し先ではなく、現状の方を早急にどうにかした方が良いと思う。あいのりタクシーを運行しているが、朝1便は行って、帰りがちょうど良い時間の便が無いとスーパーで何時間も待たないといけない。
病院に行き、薬局へ寄っていきたいが、乗り場に指定されていないので、乗り場まで移動して持っている方もいる。
観光あいのりタクシーについても、竜門ダムに行かれる方は滅多にいない。手前の神龍八大龍王神社は平日でも行く方がいる。スタンプラリーがあるので菊池プラザから乗っている方もいる。現状を見直していただいたほうが利用者にとっても良いのではないか。

吉城会長：実態として貴重な声である。すぐにやる短期的な話、中期的、長期的なことがあると思うが、今後の設定として議論がある想定でよいか。

事務局　：そうである。

荒木委員：我々もできることなら全面的に協力したいが県全体、全国でタクシーは運転手不足。県内の平均年齢は恐らく70歳近いのではないだろうか。第二種免許費用を負担する、と言っても運転手をしたいという人はいない。既に持っているから運転しよう、という方が殆どであり、新規の方はいない。5年先に会社があるかとなると、会社従業員は平均70歳程度であり、75歳になれば辞めるだろう。会社も存続しないことになる。こちらとしては、協力したくてもできる状態ができていない。赤字では運営できないので、赤字が続けば廃業せざるを得ない。その中で協力できることをやっている。あいのりタクシーの泗水地域を担当しているが、赤字である。丸一日運転手を拘束されるが、普通の運賃額しかいただいておらず、一日分の対価が発生しない。市には要望しているが返答はない。乗務員に対する対価も渡せない。乗務員の人数がいれば良いが、一度辞めた運転手に私が頭を下げてもう一度やっていただけないかという話をして運営している状況である。あと何年出来るか分からない。

斉藤委員：5年先の協議をする中で、今日明日のことも大事であると事業者の声を共有させていただいているが、困っている状況については、短期的な計画に取り掛かっていただきたいのが団体としてのお願いである。
9ページのイラストを見ると、役割分担が書かれているが、事業者は地域に密着し、使命感だけで頑張っている状況。黄色の集落内移動については、例えば、一般のタクシー事業に地域のドライバーが入り込んで、一般タクシーの仕事が無くなる印象も受ける。事業者の声を細かく拾って、この先もタクシー事業者として継続できるような仕組みづくりを考えていただきたい。

北島副会長：運転手不足について、あいのりタクシーやべんりカーに協力いただいている中で現状を把握している。5年スパンで計画は立てるが、長期目標と短期目標は住み分けて、喫緊の課題は来年度からでも対応できるようロードマップを考えながら取り組みたい。タクシー事業者などヒアリングが進んでいるが、調整して事業を短期・長期で差別化して取り組みたい。次回の会議では具体的な案を落とし込むことになるのでまた意見をいただきたい。来年度事業化する部分や新しい交通体系を整理していきたい。
広域交通の話は、菊池管内でもTSMC関係で大きく動いている。今まで自治体間で話をしていなかったが、今年9月に担当者で集まり、共通課題や将来どうするか意見交換し始めたところである。県とも連携しながら課題を押さえたい。

伊豆野委員：沿線の各自治体の担当者と話す中で、コミュニティ交通も広域交通にできるとこがあれば考えるべきと話している。そういう取組は、お互いの地域が跨るところを補完できるかもしれないので、議論できればより良い地域になると思う。

佐々木委員：バスの運転手も確保が厳しく、できてない状況である。説明会や乗車体験を行っているが、ハードルは第二種免許取得にお金がかかることである。取得には40万くらいかかり、それを負担して運転手になろうという方はいない。これをクリアしないといけない。助成をしているが限度がある。市へのお願いは、費用の面、助成も公的支援として考えていただきたい。

吉城会長：具体事業として広域視点で取り組むこと、今すぐやることと5年じっくりかけることの住み分け、バス路線とこれから走らせる交通の住み分け、が今後の議論だろう。1つの事業として、助成が可能かも検討していただきたいところである。

（２）その他

事務局　：前回議題に上がったライドシェアについて事務局から状況を説明

白石委員：ライドシェアを想像するとアメリカが出てくると思うが、定義としては、一般の人がアプリで車を出すことと乗ることのマッチングがアメリカのライドシェアである。これが日本で認められた訳ではない。日本版ライドシェアは、タクシー事業者の下に指導教育を受けて一般の方が第一種免許で運転するものである。それと公共ライドシェアは、自家用有償旅客運送の登録をして自治体やNPOが利用者を運送する。これは交通空白地の足を確保するためにある。ライドシェア、日本版ライドシェア、公共ライドシェアの違いを説明した。

佐々木委員：4ページの運転手が交通事業者でない場合の許容度について、地域の知人ではない方の送迎は同乗しない方が55％というデータがある。運転手がいない極限の状態なので、第二種免許を持っている方を増やすことを加速させないと地域ニーズにあったものができないと思うので、第二種免許取得支援について努力していただきたい。

事業者　：第二種免許の課題は優先的と考えている。一方で、べんりカーやあいのりタクシーが使えない方が増えているのも事実である。5年後を想定した時に、賄いきれる第二種免許取得者を確保できるかも課題と思っているので、双方を対策していくのが良いと思う。幹線についてはタクシーやバスでしっかり稼ぐのが良いと思う。

伊豆野委員：バス事業者もタクシー事業者もだが、如何に運転手確保するかが重要である。費用面など課題はあるが、菊池市には毎月第2土曜日の講習会に視察にお越しいただいた。HPへの情報掲載をしていただき、事業者として御礼申し上げる。引き続き協力いただきたい。

北島副会長：広報ツールを使いながらできるところから運転手確保の協力をしたい。また機会があれば情報提供いただきたい。

事務局　：パブリックコメント、スケジュールについて説明

５．閉会